

道の駅への期待

「道の駅」は制度発足から20年がたったそうです。各地域の創意工夫で個性豊かなにぎわいの場として、人気のスポットになっていきます。安心と便利さを提供する快適な場、地域の魅力を掘り起こし発信する場、地域産業振興や交流の場としても進出し、道路利用者や地域住民を惹きつけ、公的施設としての役割も増えていると聞いています。

東日本大震災の直後、多くの道の駅が避難所として人々を受け入れ、食料や毛布の提供、トイレ開放など多くの住民に感謝されたことは知られています。救援復旧部隊の前線基地に活用されたり、被災者救助や支援復旧活動で大きな役割を果た



「道の駅」にリスクマネジメントを

し、防災面への期待はさらに高まっていくと言えるでしょう。しかし、道の駅に求められる

公共的役割が増大する一方で、万一の事故や災害への備えはどうなっているのでしょうか。おそらく、道の駅設置者である市町村や運営管理者の判断に任ざれているのが実情ではないかと思えます。

東京海上日動火災保険(株)の公務開発部では、不特定多数の人

が集い、地域産品が集積する地域活性化の拠点、非常時の地域防災拠点として、さらに道



の駅の機能を強化し拡充するには「公的施設にふさわしい一定水準のリスクマネーのリスクマネーを組んできました。その一環として「地域に欠かせない存在に成長し、さらに進化する道の駅の発展に、少しでも役立つお手伝いが出来れば」と願っています。

マネジメント体制を構築することが必要ではないだろうか」と考えています。

具体的には、各種保険を活用したリスクの移転/災害時における市町村と運営管理者の役割分担の明確化や連携体制の構築/事業継続計画(BCP)の策定/現場での事故・災害時対応マニュアルの整備……などが考えられます。

■お知らせ

今回のルートプレス第40号から、新たに「道の駅への期待」のコーナーを設けました。第2ステージに入った道の駅に対し、「わが社は道の駅でこんな事業を展開したい」「道の駅をこんな風に使っては」「などのアピールを、主に企業や各種団体などに提案してもらうコーナーです。その会社などを代表して、「個人」の考えをベースに展開してもらいます。掲載希望の会社や団体は、本紙編集部 (info@route-press1.jp) またはご連絡ください。